

〈研究成果の紹介〉

ライトトラップによるカンキツ園へのツヤアオカメムシ飛来の早期検出

農業研究部紀南果樹研究室

1. 成果の内容

果樹カメムシ類として主要種であるツヤアオカメムシは、国内では西南暖地で主に発生していましたが、近年、太平洋沿岸では関東地方でも確認され、発生地域が拡大しています。三重県南部でも、発生が増加傾向にあります。

そこで、現状活用できるライトトラップ（誘蛾灯）、チャバネアオカメムシフェロモンを用いたトラップ及び無防除園地でのたたき落とし落下個体数調査の3種の方法により発生消長の調査を行いました。その結果、カンキツ園への飛来を早期に検出し、防除時期を判断するための基礎データが得られました。

(1) 県南部におけるツヤアオカメムシの比率

近年、三重県南部ではライトトラップに誘殺される果樹カメムシ類に占めるツヤアオカメムシの比率が高まっています。

(2) 3種の方法による発生消長

これまでの調査結果から、ライトトラップ、チャバネアオカメムシフェロモンを用いたトラップとも誘殺のピークは5月上中旬と10月上中旬になりました。また、カンキツ無防除園

地におけるたたき落とし落果個体数についても、その推移は2種のトラップの誘殺傾向と非常によく似ています（図1）。

(3) 3種調査による発生傾向の比較

飛来増加期にあたる4月と8～9月のライトトラップは、他の2種の調査に比べ、誘殺数がやや早くから増加しました（図1、図2）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

ツヤアオカメムシの園地への飛来数増加期にあたる4月と8月～9月のライトトラップによる誘殺傾向は、ツヤアオカメムシが優占して発生する地域で、防除時期の判断に活用できます。

3. 普及、利用上の留意点

カメムシが飛来してくる光源を見つけて、継続観察することが大切です。

（上西啓資）

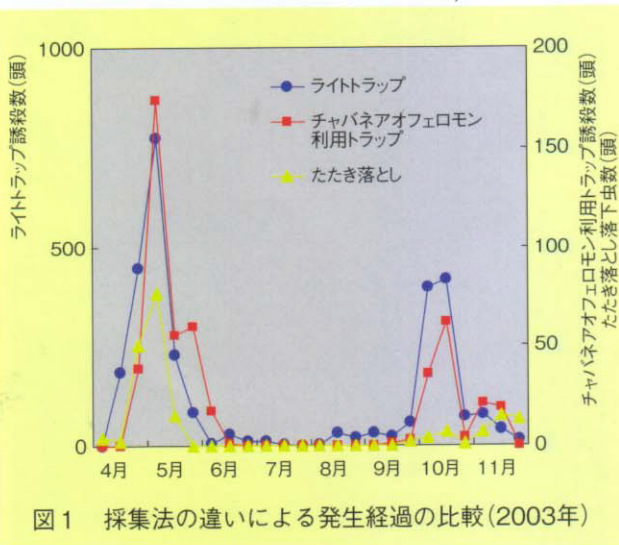


図1 採集法の違いによる発生経過の比較(2003年)

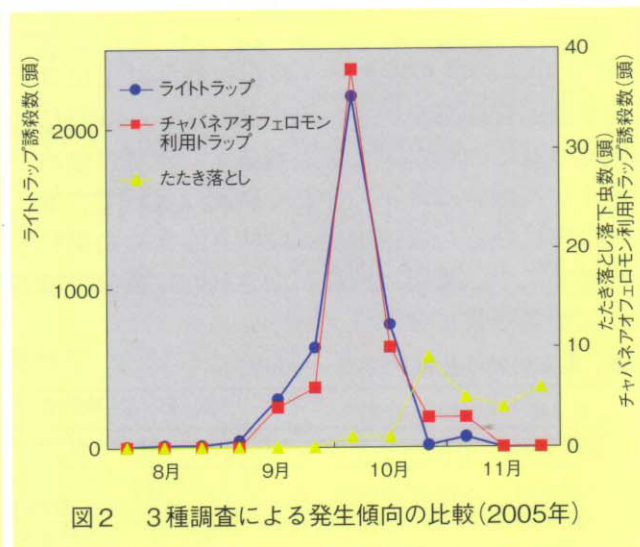


図2 3種調査による発生傾向の比較(2005年)